

## 受賞作品 (50音順)

- 👑大賞 01 | 尾張一宮駅前ビル  
02 | 工場から家  
03 | 壺中の天居  
04 | The Garden 覚王山  
05 | 設楽町立田峯小学校  
06 | 豊川稲荷表参道商店街景観整備事業  
07 | 八事山興正寺参拝者駐車場 / 八事交番

## 選考基準

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているもののうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

### 1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 新しい地域景観の形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

### 2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。

(以下例示)

- 地域の風土を生かし、新しい地域文化を創造しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

### 3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

### 4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

## 選考経過

推薦・応募対象 愛知県内で、平成20年4月1日から平成25年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準に該当するもの。

募集期間 平成25年7月1日から平成25年8月20日まで

推薦・応募総数 93通(91作品)

第1回選考委員会 平成25年9月5日  
1次選考を行い、  
20作品を2次選考対象とした

第2回選考委員会 平成25年11月5日  
2次選考を行い、7作品を選出  
(うち1作品を大賞に選出)

表彰式 平成26年1月30日

## 選考委員 (順不同 / 敬称略 / ●印は選考委員長)

- 伊藤恭行 名古屋市立大学教授
- 生田京子 名城大学准教授
- 北川啓介 名古屋工業大学大学院准教授
- 武藤 隆 大同大学教授
- 村山顕人 名古屋大学大学院准教授
- 森 真弓 愛知県立芸術大学准教授
- 佐藤東亜男 公益社団法人愛知建築士会会長
- 朝岡市郎 公益社団法人愛知県建築士事務所協会会長
- 鈴木利明 公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会会長
- 松井宏夫 愛知県建設部建築担当局長

主催: 愛知県  
後援: 愛知県市長会 / 愛知県町村会 / 愛知県商工会議所連合会 / 中部経済同友会 / 愛知県都市計画協会  
協賛: (公社)愛知建築士会 / (公社)愛知県建築士事務所協会 / (公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会 / (一社)愛知県建設業協会 / (一財)愛知県建築住宅センター / (一財)東海建築文化センター / 愛知県建築技術研究会 / 中部デザイン協会

愛知県建設部公園緑地課  
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
TEL:052-954-6612 (ダイヤルイン) MAIL:koen@pref.aichi.lg.jp

ART DIRECTION + DESIGN 高柳新(CAMP)

## 第21回 愛知まちなみ建築賞

表彰作品集 2013

# AICHI MACHINAMI KENCHIKU SHO

# AICHI MACHINAMI KENCHIKU SHO



愛知県知事  
大村秀章  
HIDEAKI OMURA

## 愛知まちなみ建築賞について

愛知県では、良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識のもと、平成5年度に「愛知まちなみ建築賞」を創設しました。以来、毎年、地域における新しい建築文化の創造に寄与しているものや、地域のまちなみに調和し魅力的な景観の形成に寄与しているものなど、社会的貢献度の高い建築物やまちなみを表彰しています。

今回は、91作品の応募をいただきました。これら多くの作品の中から選考委員会での厳正かつ熱心な審査によって7作品が選ばれ、うち1作品が「愛知まちなみ建築賞大賞」に選出されました。

今回の受賞作品は、立体広場を通じて人と人とのつながりを高める駅前公共施設、地域の景観の特徴を深く理解し

て設計された住宅、地域住民の誇りと記憶を継承するため再生された小学校、商店街・大学・行政が協働して進めている景観向上への取組、歴史的建造物や周囲の緑に建物の色彩を配慮した駐車場・交番など、いずれも社会的貢献度の高い作品となりました。これらの受賞作品が今後多くの人々に愛され、また魅力と潤いのある地域の形成に寄与していくことを期待しています。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、深く感謝申し上げます。今後とも県民の皆様と連携して魅力と潤いのある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 受賞作品 (50音順)

- |                     |                            |
|---------------------|----------------------------|
| 大賞 01   尾張一宮駅前ビル    | 06   豊川稲荷表参道商店街<br>景観整備事業  |
| 02   工場から家          | 07   八事山興正寺参拝者駐車場/<br>八事交番 |
| 03   壺中の天居          |                            |
| 04   The Garden 覚王山 |                            |
| 05   設楽町立田峯小学校      |                            |



練り込み技法による記念銘板  
作/陶芸家 水野教雄氏

## 第21回愛知まちなみ建築賞 総評

文化や芸術作品を顕彰する制度は長く継続していくことに意義がある。20年に渡って選ばれてきた受賞作品群は、それらが建てられた時代の記録として重要であると共に、そこで示された評価の視点が蓄積されていくことも同様に大切なのである。作品と批評は時代を映す合わせ鏡でもあるからだ。この賞は今回で21回目であり10年後の30回を目指して継続していくことで、賞として価値が益々高まっていくのではないかと期待される。

県内各地から91作品の応募をいただいた。この中から愛知県の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合しないもの3点を除外して、88作品を審査の対象とすることとした。例年、数点の作品がこの条例に適合しないとして選考から外さざるを得ないが続いている。応募者には十分な注意をお願いしたい。応募作品数については、平成22年が149作品、23年が120作品、24年が106作品となっており、やや減少傾向にある。地域ごとでは、名古屋市34点、尾張地域28点、西三河地域14点、東三河地域12点となっている。1次選考では、この中から20点を2次選考対象作品とした。11月5日に行われた2次選考では、作品ごとの詳細資料・図面ならびに現地撮影した映像資料を用いて選考委員による評議を行い、7作品を選定した。この賞が一般的な建築賞と異なるのは、

「まちなみ」という言葉を冠していることだ。それ故、評価の視点はより限定的なものになる。もちろん建築賞であるから、コンセプトの明晰さ、新しい技術への挑戦、美的完成度などは評価の対象となるのだが、それ以上に周辺との関係のとり方が重視されることになる。ここでは、他の建築賞で高い評価を得た作品であっても受賞作とならないことが度々ある。逆に、一般的な建築賞では評価されないような地道な努力にスポットを当てることは、この賞の大きな役割ともなっている。例えば今回受賞が決まった「豊川稲荷表参道商店街景観整備事業」は、まさに「まちなみ建築賞」に相応しい試みであるように思われる。

街にとって、人の姿があることはとても重要だ。大賞となった「尾張一宮駅前ビル」は、大きなスケールでありながら人のいる風景を主役に据えた建築となっている。シビックテラスと名付けられた地上3階にある半屋外空間が素晴らしい。このテラスは市民が集う場であり、街を眺める場であり、同時に街から眺められる場となっている。どの視点に立っても人と建築が共存しており、新しい公共空間の姿として高く評価したい。

今後も、単なるオブジェとしての建築の美しさを追求するだけでなく、人のいる風景としての街と建築を創り出すような挑戦を期待したい。



名古屋市立大学教授  
伊藤恭行  
YASUYUKI ITO



## 尾張一宮駅前ビル

おわりいちのみやえきまへびる  
一宮市栄3丁目



尾張一宮駅前ビルは、線路が高架となっているJR尾張一宮駅に隣接して建つ、公共複合施設である。図書館や子育て支援センターなど、公共の市民サービス機能を持ち合わせている。外装に一宮の伝統的産業である織物をイメージしたパターンを施し、3~5階部分中央が大きく開口しているのが特徴である。

この開放された部分に配置された立体広場「シビックテラス」は、隣接する駅のプラットフォームと同じレベルに設定され、駅側からの



眺望も確保しており、東西の街の風景を繋いでいる。「シビックテラス」は市のサービスへアクセスするための空間でありつつ、イベントスペースとしても利用され、市民の日常的交流の場として、人々の自然な交流と活気を促している。ゆったりとしたテラスから生まれた賑わいが、まちなみの中に溢れて広がっていくように見える。

人の動きが建物と一体となって見えてくる、このような事例は他にはあまりなく、街にある建築の姿として、積極的に“活きた風景”を創出している点が高く評価された。

森 真弓 Mayumi Mori

建築主	一宮市
設計者	株式会社山下設計
施工者	名工・中野・昭和土建 特定建設工事共同企業体
主要用途	図書館・子育て支援・集会場・ 開放テラス他
構造	鉄骨造
概要	
階数	地上7階
敷地面積	4,339.67m <sup>2</sup>
建築面積	3,878.46m <sup>2</sup>
延床面積	21,429.95m <sup>2</sup>

1,2,3,4,5 / 写真提供: 山下設計





1.3 / 滝田フォトアトリエ  
滝田良彦(2012)  
2 / 写真提供: 裕建築計画

## 02

### 工場から家

こうばからいえ  
名古屋市千種区今池3丁目

「工場(こうば)から家」は、2代続いたが廃業により使われなくなった鉄工所の建物を、既存のフレームと外壁を残しながら住宅にリノベーション(大規模な改修工事+建物用途の変更)したものである。この建物は、千種区今池から南に行ったところであり、長年住んでいる住民が多く下町の風情が残っている地域にある。

住民にとって馴染みのある、街の風景の一部にもなっている建物を残そうとする建築主の姿勢と、既存の構造材を利用しながら大胆に住宅に転用した設計者の手腕が評価された。特に、敷地いっぱいにて建てられた工場の南の一部を減築し、住宅の庭とアプローチに利用した外部空間の創出は、街にゆとりをもたらし、近隣の人々とのコミュニケーションが増えることが期待される。

スクラップアンドビルドの手法とは異なり、既存ストックを活用したリノベーションやコンバージョン(用途変更)による建築は、人々の記憶を継承しながらまちなみ景観に緩やかな変化を与えていこう。今後のモデルとしても優れた作品である。

松井宏夫 Hiroo Matsui

建築主	中島匡貴
設計者	有限会社裕建築計画
施工者	株式会社ヨシコウ
主要用途	専用住宅
構造	鉄骨造一部木造
階数	地上2階
敷地面積	174.51m <sup>2</sup>
建築面積	120.40m <sup>2</sup>
延床面積	169.30m <sup>2</sup>



建築主	弘照山地蔵寺
設計者	鈴木光雄建築工房
施工者	株式会社土本建設
主要用途	庫裏(住宅)
構造	鉄筋コンクリート造一部木造
階数	地上2階
敷地面積	1,286.80m <sup>2</sup>
建築面積	107.05m <sup>2</sup> (増築部分)
延床面積	147.59m <sup>2</sup> (増築部分)

1,2,3 / mitsuo(2013)



この建物は、まだ田園風景が残る住宅地に建つ寺院の庫裏(住宅)である。入母屋の屋根を載せた本堂を含む境内を取り囲む塀からは、やや外れて道路に面した角地に建つことから、寺院との一体感とまちなみといった二つの異なった配慮が求められる条件に対して、異なったボリューム感や素材を駆使することで、その双方に対しての空間構成がなされており、審査では高い評価を集めた。

本堂とは比較的近くに建ち並ぶメインの住宅部分は、丁寧に作られた二層分のコンクリート打ち放しのボックスだが、防犯上の理由が功を奏し周辺に対して開口部を設けないことで、生活感を外部ににじみ出させることなく、寺院との端正なたたずまいの調和に成功している。また、本堂と住宅部分のボックスとの二つの大きなボリュームを結ぶ渡り廊下は、低く連なる塀との中間的なスケールの板張りとし、水平線を強調する長さを与えることで、異なったスケール感を中和し、道路に面していながらも周辺に圧迫感を与えることなくすとも、前面に広がる田園と一体となる景観の創出にも寄与している。

武藤 隆 Takashi Muto

## 03

### 壺中の天居

こちゅうのてんきよ  
岩倉市西市町



1

## The Garden 覚王山

ざがーでんかくおうざん  
名古屋市千種区山添町

戸建住宅が集まる名古屋市千種区の住宅街の角地に建つ三棟の住宅である。その敷地境界には、形態も大きさも構造も材料も時代も異なる戸建住宅が道路に沿って立ち並んでいる。こうした環境の中でほぼ同じ規模の住宅三棟を建てる機会を得た設計者は、全体に行き渡ったシャープな形態、人体寸法にフィットする各所の幅や高さ、外壁や開口部の形式など、まちなみに強く関わるデザイン要素を可能な限り最低限とする一方で、その統一性の中に絶妙な差異を設けている。

一般的に、戸建住宅が並ぶ街区では、各棟の個性が表出していくため、統一されたまちなみを形成することはなかなか容易ではない。それに対して、大規模な開発でもな

い戸建住宅の設計において、一棟のデザインを突出させるのではなく、逆に、秩序の中に、人々の視線を一箇所にまとめない、まちなみのゆらぎをも生みだしている。古からの街道などに残るまちなみのDNAをも形象している点も高く評価した。

北川啓介 Kelsuke Kitagawa

建築主	石川真也
設計者	D.I.G Architects
施工者	株式会社アーキッシュギャラリー
主要用途	専用住宅
構造	木造
階数	地上3階
概要	
敷地面積	289.33m <sup>2</sup> (3棟)
建築面積	129.23m <sup>2</sup> (3棟)
延床面積	356.02m <sup>2</sup> (3棟)



1,2 / 写真提供: D.I.G Architects

04

05

## 設楽町立田峯小学校

したらちょうりつだみねしょうがっこう  
北設楽郡設楽町田峯

東三河の平野部・街はずれに暮らし、「奥三河」の野山巡りを至上の楽しみに育った私にとって、何とも懐かしくも頼もしい山里の地域コミュニティの中心「小学校のある光景」の再生・再現であった。

「まちなみ」は狭義の建築物の織り成す物的景観を超えて、山並み等の自然地形や地域社会の表徴的佇いと調和・新機軸創出と捉えるなら、まさにこの賞に推挙されるべき「いい仕事」だと思う。今や全国的にも貴重となった平屋建て木造校舎の有りようを、末永く地域社会の次代に継承する好建築物として、改修後の姿で国の登録有形文化財に選ばれたという続報も入ってきた。

記憶と景観を墨守しつつ現代技術に則り耐震・耐久化する保存改修の具体的施術にも評価したい。「変わらぬ姿」で残すため

の耐震要素の内蔵化、一見秘かな屋根の軽量化・基礎の強化、既設資材の再利用や思い出空間の再編など、随所の心遣いが嬉しく響く。

この改修なった小学校が、愛すべきローカル社会の物心の求心・発信拠点として、末永く生き続けることを願ってやまない。

鈴木利明 Toshiaki Suzuki

建築主	設楽町
設計者	株式会社黒川建築事務所
施工者	株式会社太平建設
主要用途	小学校
構造	木造
概要	
階数	地上1階
敷地面積	4,302.00m <sup>2</sup>
建築面積	1,088.40m <sup>2</sup>
延床面積	1,084.03m <sup>2</sup>



2



3

1,2 / 写真提供: 田峯小学校  
3 / 太平建設(2011)

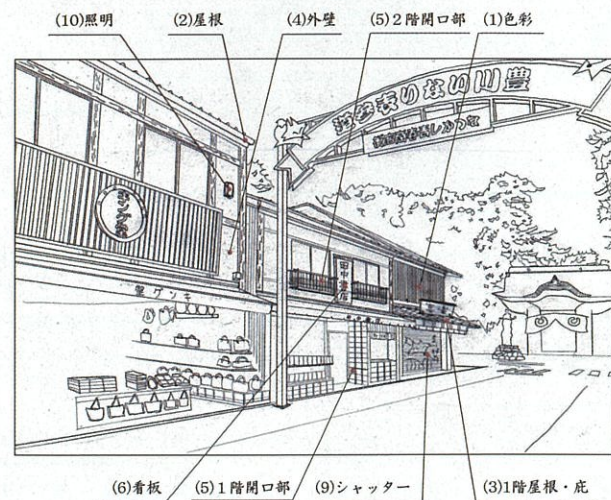
## 豊川稲荷表参道商店街 景観整備事業

とよかわいなりおもてさんどうしょうてんがいけいかんせいびじぎょう  
豊川市門前町



- 2 手焼堂 / 車田保 (2011)
- 3 彦坂邸 / 車田保 (2011)
- 4 こまもの屋ふじや / 車田保 (2011)
- 5 もりたや酒店 / 車田保 (2011)
- 6 喫茶シャモニー・おきつね本舗 / 松島 (2013)
- 7 膳丸 / 松島研究室 (2013)
- 8 和食処松屋・カドヤ / 細亮 (2013)
- 9 景観整備基準 / 資料提供: 松島研究室

### 景観整備基準



- (1) 色彩  
白、黒、茶系を基調
- (2) 屋根  
写配屋根で日本瓦葺使用
- (3) 1階屋根・庇  
軒先の高さ2.5m  
街並みに調和する材料使用
- (4) 外壁  
木漆喰土壁等
- (5) 1階開口部  
街並みに調和させる  
2階開口部  
格子、飾り窓、手摺り等を設ける
- (6) 看板  
店舗中央に配置  
袖看板は設けない
- (7) 設備機器  
露出する機器は塗装、  
もしくは格子で目隠し
- (8) 門・塼  
駐車場や空地に門・塼を設置
- (9) シャッター  
豊川稲荷に関する絵や  
文字を飾る
- (10) 照明  
看板又は2階壁面に街並みに  
調和する照明、ブラケット  
を設置



1 店主・大学・行政が集まり開かれるまちづくりの話し合い / 松島研究室 (2013)

豊川稲荷表参道にはかつて幅員を6mから12mに拡幅する都市計画道路計画が存在していた。様々な検討の結果、2007年にはこの計画が廃止され既存のまちなみが継承されることになった。豊橋技術科学大学松島研究室は、2006年・2007年に社会実験として2店舗の改修を提案・実施・評価した上で、表参道として望ましいデザイン方針を景観ガイドラインとして豊川市に提言し、それを受けた市は2008年にファサード改修の補助を行う景観整備事業を開始した。これまでに11店舗の改修が完了している。

本事業で評価されるのは、建築主・大学研究室・景観協議会・店主ら・市による体制の下でガイドラインに基づくデザイン審査が行われていること、そのデザイン審査は積み重ねてきた歴史を踏まえた現代の文脈の中で行われていること、大学研究室が事前相談・事前調査・提案書作成等の重要な部分を担っていること、継続的な取り組みによって複数の建築物で構成されるまちなみの質が向上していることである。

関係主体によって丁寧な提案・審査が行われることにより、厳しい規制により形成されるまちなみとは違ういきいきとしたまちなみが創出されているように思う。

村山顕人 Akito Murayama

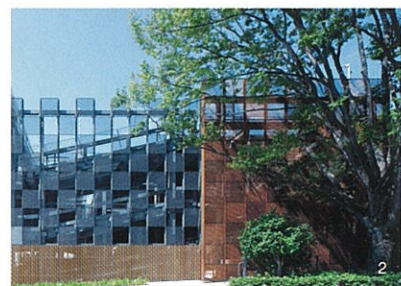
建築主	豊川稲荷表参道発展会
設計者	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 松島史朗研究室
概要	主要用途 店舗兼住宅、店舗 構造 木造、木造一部鉄骨造



本計画は、駐車場・交番の建物のすぐれたデザインもさることながら、同時に整備された、興正寺参道および公園の一体計画が評価に値するだろう。参道周辺を、明るく地域に開かれた統一感ある公共空間とするために、寺に隣接する児童公園や交番を巻き込み、数年にわたり協議を重ね、あわせてビオトープ、駐車場などを一体のものとして空間を整備した。それにより、多くの地域の子供達が安心して訪れ、児童公園で遊んだり、カブトムシやザリガニを採ったり、というような空間が地域に提供された。

駐車場・交番の建物は、新築ながらも、通りの歴史の重みを踏まえたデザインとなっており、存在感がありつつもそれを消している。伽藍の瓦屋根と類似させて、市松模様のブラックコンクリートを使用しているが、模様のスケールは歩行者から見たスケールと車から見たスケール両方が考慮されている。また、鉄骨、木、コンクリートという素材が、素材の色を活かした形で使われており、その使い分けも巧みである。

生田京子 Kyoko Ikuta



1,2,3 / 有限会社カドロー (2011)

## 八事山興正寺 参拝者駐車場 / 八事交番

やごどさんこうしょうじさんばいしやちゆうしやじょう/やごどこうばん  
名古屋市昭和区八事本町

建築主	八事山興正寺			
設計者	株式会社三菱地所設計一級建築士事務所			
施工者	株式会社大林組名古屋支店			
概要	主要用途	立体駐車場	主要用途	交番
	構造	鉄骨造	構造	鉄筋コンクリート造
	階数	地上3階	階数	地上2階
	敷地面積	2,409.91m <sup>2</sup>	敷地面積	65.23m <sup>2</sup>
家	建築面積	1,528.67m <sup>2</sup>	建築面積	49.00m <sup>2</sup>
	延床面積	4,286.50m <sup>2</sup>	延床面積	81.69m <sup>2</sup>